

【議事要旨】平成 26 年度 南三陸町総合計画審議会（第 3 回）

日 時：平成 27 年 3 月 24 日（火）

13:30 ~ 15:00

場 所：南三陸町役場大会議室

次 第

1. 開会
2. 挨拶（会長）
3. 報告事項
 - (1) 復興状況について
 - (2) 作業部会開催結果報告について
4. 審議
 - (1) 基本構想骨子（作業部会案）について
5. 閉会



（配布資料）

- 次 第 平成 26 年度南三陸町総合計画審議会（第 3 回）
- 資料 1 南三陸町 震災復興計画の進捗状況【平成 27 年 3 月版】
- 資料 2-1 南三陸町震災復興計画実施計画の概要について（案）
- 資料 2-2 南三陸町震災復興計画実施計画【平成 27 年度～平成 29 年度】
- 資料 3 総合計画審議会等の開催概要
- 資料 4 南三陸町～基本構想骨子案～

■議事要旨

1. 開会

※第 3 回総合計画審議会が開催された（出席委員 10 名）

2. 挨拶（佐々木会長）

3. 報告事項

（1）復興状況について

（質疑応答）

委員：町有林は森林認証（フォレストック）の認定を受けているが、民有林は FSC（森林管理協議会）の認証を受けていないので記載内容を再検討すべきと思う。

町長：記載内容を再検討する。

委員：「産直木材で家づくり復興支援事業」が「農業の振興」の分野になっているが、「林業の振興」の分野になるのではないか。

産業振興課：「林業の振興」の分野に修正する。

委員：「道の駅」の仕掛け、ハード面の検討は、総合計画に入っているのか。

事務局：H27 年度先行まち開きエリアに商店街、地域交通の拠点が整備されるが、今後の事業の進捗状況や国道 398 号の事業期間次第で、時期がずれる可能性もある。今後、仙台河川国道事務所及び宮城県との調整の中で進めていく計画に

なっている。記載はないが、道の駅に「インバウンドの取り込み」や「地域防災機能のバックアップ機能導入」も検討されており、今後の課題と考えている。

産業振興課：三陸沿岸一体が新たに三陸復興国立公園になって、従来、町が整備していた自然環境活用センターがネイチャーセンターとして復興する。加えて、環境省で「自然の家」付近でビジターセンターを設置する予定になっている。南三陸町のセンターは「海」をテーマとした施設で、石巻は「川」、津山は「山」をテーマとして整備される。この3つの施設で囲まれたエリアを「フィールドミュージアム」として打ち出すことになっている。今後は、国立公園の機能を有効に使ったまちづくりが必要になってくると思う。

委員：道の駅が志津川地区に整備されるが、施設を持たない道の駅だと聞いた。登米市では志津川ICの手前にサービスエリアを作るという話も聞いている。志津川でもなにか仕掛けづくりが必要だと考えている。ビジターセンターでは、人材育成の計画しかないので、他に何らかの仕掛けが欲しい。

（2）作業部会開催結果報告について

（質疑応答）特になし

4. 審議

（1）基本構想骨子（作業部会案）について

（質疑応答）

【第1章 南三陸町のまちづくりが目指すこと】

委員：「まちの将来像」の作業部会案は、守りに入っているように感じる。町の未来に対する攻めとまでは言わないまでも、インパクトのあるものが入ってくるといいと思う。

事務局：ご意見をもとに次回以降の部会で基本構想を磨き上げていければよいと思う。

委員：今の意見には同感である。

委員：作業部会には、まちづくり協議会の若い人達が多く出席し、南三陸町の目指す将来像について意見交換をした。今の総合計画の将来像を引き継いでいくのか、それとも少し変えるのかどうか。「住んでもらいたい」という気持ちで、家族で安心して住める町ができたらしいなというのが皆の統一した意見である。その方向にもっていくのにはどういう文言が必要なのかということで「あってみたいようないなか」や、「きらりと光る南三陸町」という文言が出てきた。

委員：「みんなでいってみたい」というのは積極的に発信していくべきだと思う。そこで「またきてみたい」というリピーターを増やす。その中には、南三陸町に「暮らしてみたい」という人もいると思う。いいキャッチフレーズだと思う。人口減少に歯止めをかけることにもつながる。

【第2章 人口、経済等の見通しと目標】

委員：人口減の理由は把握しているのか。

事務局：震災があつて約3,500人減少しているが、震災がなくても2,900人減る推計になっていた。推計で11,500人という見込みを政策によって何人積み上げられるのか検討しなくてはならない。町で独自の人口推計を入れるかどうかも含めて検討している。

会長：震災でかなりの人口流出を目の当たりにした。その対策を含めてご意見をお

- 願いしたい。たとえば、生産年齢人口がこんなに減ることについてはいかがか。
- 委員 : 町外仮設等に450世帯が暮らしている。5年6年と住んでいると考え方や環境も変わり、帰ってきたくても帰ってこられなくなる。雇用がなければ仕事を辞めてまで帰ってこない。根本的に考えていかないといけない。
- 委員 : 帰農運動を進めていて、田舎に帰ってくる人が増えている。体制を整えれば、このように減る推計にはならないと思う。まず、「子育てがしやすい町」を目指すべきだと思う。
- 委員 : 高齢化率が高いのは仕方ないと思うが、子供が減っていくという状況が問題である。次の世代が子供を産める環境を整えることが大事だと思う。私の子供は被災していないので、高台移転事業では家を建てられない。このままではなかなか子育てをする年齢の方々が流入してくることができない。若い人達が流入してくる体制をつくることが大切だと思う。
- 委員 : 人口の減少は最大の心配事である。将来消滅する町の中に南三陸町が上位に入っている。人口推計では、37年度が11,507人となっているがこれは上位推計の値で下位推計だと9,550人くらいになる。人口減少は全国的にやむを得ないものだが、独自の方策をとって人々が町に残りたいと思うことを考えるべきだと思う。町外に移転する人達は、「両親がいて2代目の子供たちがいて孫がいる」というような一番人口が多い人達である。この町に残りたいと思うようなアピールが足りないと思う。行政側がもっと積極的にするべきである。東松島市のように、「30年間にわたる土地の無償提供」のような大胆な案を出さないと、どんどん人口が流出してしまう。この町に残っていただきたいという思いを込めた施策を出していかないといけない。人がいなければ商店街を作っても商売にならない。危惧している。
- 委員 : 思い切った施策が必要だと思う。観光協会の職員は14人中10人が町外から来ている。来月から東京の大学の生徒がくるし、他にも大学から来ている生徒がいる。その中の一人に払川地区の古民家を借りて起業する人もいる。そのほかにも民放でやっている「ダッショ村」のようなものをつくろうという計画もある。ほかにも舟沢の串かつ店が商工会、復興市に入ることになっている。若い人たちは、資金の支援が必要になってくる。もっと支援することができれば農業をしたい人や起業したい人などが集まってくれると思う。町をあげてサポートできると良い。
- 委員 : 自分の周りでも子供が減っていると感じる。これから13,300人を目標としていくということだが、人口減を食い止めるためにまず雇用と思う。生活が成り立たない限り住むことはできないし、他の町に移転した人に戻って来いとも言えない。雇用があれば戻ってくることも考えると思うし、出て行くのも止められると思う。全国的に人口が減ってきているので、自然に増えるというのも難しいと思うので、いかに流出を止めるかが重要だと思う。行政と民間が連携してやっていかないと難しい。
- 委員 : 震災後、登米市に若い人達が移住している、と聞いた。町外に出た人が、町内に戻ってくるような方策が重要と思う。戻ってきたくても、制度上集団移転の土地は買えず家を建てられない。戻ってくるためには、(制度による)ハードルを下げていくアイディアを出していかないといけない。震災前の審議会でも2025年の時点で13,000人を割るといわれていた。対策として足りないものをピックアップし、まずはいったん出て行った方をもう一度戻す方法を積極的にとったほうがいいかと思う。

【第3章 土地利用のあり方】(特になし)

【第4章 施策の大綱】

- 委員 : 作業部会でも、自由に意見交換をしており、事務局にまとめてもらっている状況である。人口問題に関しても、人口増につながる企画をどんどん進めていかないといけないという意見が出ている。登米市に仕事に行っていても、南三陸町に住んでもらうということも考えないといけない。そのため、住みやすい町、病院や子育て支援施設をつくって安心して育てられる町づくり。また、若い人が「南三陸町に家を建てたら通勤手当を出す」など南三陸に家を建ててもらえるような施策を作ってほしいという話が出ている。作業部会のなかで、具体的な企画になっていけば良いと思う。
- 委員 : 国の「森林経営計画制度」というのがスタートし、山の管理を個人ではなく地域全体でやろうという方向に方針が切り替わる。総合計画の中に、産業政策の将来像を組み込んでいただきたい。例えば、住んでもらいたいということがあると思うが、実際、南三陸町に働きに来ている人はたくさんいる。そういう働きに来ている人達の環境を向上させるまちづくりも、計画に入れてもらいたい。人口というと住んでいる人だけを考えているが、働きに来ている人のことも考慮して欲しい。後は、「必要となる林道」をどこに作っていくのかということも計画に入れ込んでもらいたい。
- 会長 : 今年度の審議会は、この会合を持って締めくくりということになるが、27年度も引き続きこのメンバーでまちづくりに対して要望を出していきたいと思っている。今後も皆さんの意見を調整しながら、「住みよいまちづくり」、「我々が胸を張って住めるまちづくり」を構築していきたいのでよろしくお願いしたい。
- 委員 : 志津川中学校下の埋め立てをこのまま進めていくとJR 気仙沼線のトンネルが掘れなくなり、復旧ができないのではないか。
- 事務局 : ここ3年ぐらいで町の復興が進むのでJR としても鉄道をどうするのか決断して欲しいと言っている。しかし、財源の問題で答えが出ていない。町としては待っていられないで復興工事をこのまま進めていく。結果としてトンネルを掘れないことになるので、山を切って沢に線路を引いてもらうしかない。それを踏まえた上でJR と国で答えを出してもらう。新年度に、町で描いた絵を国に持っていき、交渉をする予定である。復興の区切りがついた後にJR が工事に入ることはやめて欲しい、とお願いしている。もう少し時間をいただきたい。
- 委員 : 三陸道を含めた入谷地区道路整備事業とはどういうものか。
- 事務局 : もともと横断1号線を含め、いろいろな道路整備計画があった。今回の震災時に食料や物資を運んだ道もあり、改めて道路を整える必要がないのか調査をしながら進めていく。入谷地区の道路整備は、津波で被災していないので、国の交付金を使うことができない。そのため、「社会资本整備総合交付金」という事業で、年間約8,000万円の予算を使って進めていく。現時点では、地域間を連絡する幹線道路と抽象的な表現になっている。
- 会長 : だいぶ時間も押しているので閉会する。

5. 閉会

以上